

一般演題

長期にわたる経管栄養からの経口摂取再開の試み

名取熊野堂病院

岩崎鋼

目的：高齢者において長期経管栄養から経口摂取を可能とする要因について

デザイン：単施設でのレトロスペクティブパイロットスタディ

研究場所：A 病院療養病棟

研究参加者：経管栄養を 12 ヶ月以上続けている 14 名の入院患者(男性 8 名、女性 6 名、平均年齢 83.9 ± 2.6 歳)。参加者の主病名、性別、年齢、経管栄養の期間、嚥下反射時間、Kohnan 意識レベルスコアを調査した。嚥下反射が 4 秒以上の参加者については事前に半夏厚朴湯（ツムラ半夏厚朴湯エキス顆粒（医療用）エキス）を経管から 4 週間投与した。

結果：7 名が経口摂取可となり（グループ 1）、7 名は不可能だった（グループ 2）。両群間において、年齢、性別、経管栄養実施期間、嚥下反射には有意な差が無かった。Kohnan 意識レベルスコアについてのみ経口摂取可能群で有意に高かった（ 30.0 ± 5.9 vs 48.6 ± 4.5 , $p < .05$, The Student's t-test)。半夏厚朴湯は嚥下反射を有意に改善していた（10.8 秒から 4.0 秒, $p < .05$, The Wilcoxon rank sum test）。

結論：比較的意識レベルの高い患者においては、長期経管栄養後であっても経口摂取を試みうる可能性が示唆された。半夏厚朴湯は有意に嚥下反射を改善した。

なお本研究の要旨は J.Fam Med Prim Care 2020;9 3977-80.として報告した。